

脂肪移植による抗加齢医療・美容医療の未来



AND美容外科 代表医師
城本クリニック 特別指導医
田中 真輔 (SHINSUKE TANAKA)

【要旨】

脂肪移植は再生医療の一つである。脂肪幹細胞は脂肪組織1ccあたり $1 \times 10^3 \sim 10^5$ 個存在する。つまり脂肪移植と同時に脂肪幹細胞移植も行うのと同様である。脂肪組織は採取が容易であり、つまり脂肪幹細胞の確保も容易なのである。また脂肪幹細胞培養による幹細胞移植に比べ安価、迅速である。脂肪組織の生着率は脂肪細胞、脂肪幹細胞、成長因子等の相互作用で変動する。特に脂肪細胞のダメージを最小限にする事である。

【目的】

脂肪組織移植を若返りや豊胸、豊臀、外傷や熱傷後の瘢痕拘縮改善などに行った症例を検討する。

【方法】

腹部や大腿から吸引で脂肪を採取し高性能特殊フィルターバッグ(PureGraft)を使用し純粋な脂肪組織を収集する。脂肪注入量は部位により1箇所注入量を0.02ccから0.3cc程度を細く層を換え分散注入する。瘢痕組織下に注入する場合は鋭針で瘢痕部をサブシジョンを行ってから注入する。

【結果】

ほとんどの症例で満足な結果であった。豊胸の症例に限って言えば術後ある期間成長する症例が多くみられる。

【考察】

脂肪移植による抗加齢・美容医療は術後の仕上がりはスカーレスであり、かなり満足度は高い。生着率については手術手技向上によりほぼ克服している。この術式は結果を客観的に評価でき、今後さらに期待できる治療法である。

【略歴】

1993年 九州大学医学部 卒業
九州大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科 入局
1996年 久留米大学附属病院形成外科 入局
2004年 済生会二日市病院形成外科 部長
2005年 学位取得
2008年 リッツ美容外科東京院 副院長
2013年 城本クリニック新宿院 院長
2024年 城本クリニック新宿院 非常勤勤務
2025年 AND美容外科 代表医師

【所属学会・所属団体】

日本形成外科学会専門医(JSPRS)
日本美容外科学会専門医(JSAPS)
日本美容外科学会専門医(JSAS)
The international Society of Aesthetic Plastic Surgery(ISAPS)
麻酔科標榜医



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine